

飛島村総合教育会議

議事録

平成29年度第1回

平成30年1月30日開催

飛島村教育委員会

平成29年度第1回飛島村総合教育会議 議事録（要旨）

《招集年月日》 平成30年1月30日（火）

《招集の場所》 飛島村中央公民館 3階 第1会議室

《開会》 午後2時40分

《閉会》 午後4時00分

《構成員》

村長	久野時男
教育長	田宮知行
教育長職務代理者	川口賢司
委員	中山恵美賀
委員	加藤千佳

《欠席者》 なし

《出席した職員》

総務部長	早川喜久
民生部長	平野美由紀
総務課長	加藤義彦
企画課長	早川宗徳
教育部長	鬼頭邦彦
教育部次長	赤田由起江
生涯教育課長	奥村義明
生涯教育課主幹	小出秀一
教育課課長補佐	後藤きみ

《傍聴者》 なし

《会議内容及び経過》

別紙のとおり

別紙

《会議内容及び経過》

開 会

1 村長あいさつ

本日は村の根幹をなす大切な会議です。私どもの総合計画の中のひとつ、教育の基本方針を定めるものです。今、総合計画第4次の後期を迎え、皆様方の忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2 協議事項

教育課長補佐から総合教育会議の経過と平成28年度の教育事業の報告をした。

(1) 飛島村教育大綱の見直しについて（資料1-1～資料1-3）

教育部長から、大綱の対象期間は、第4次飛島村総合計画との整合を図るため、平成30年度から平成34年度までの5か年とし、「郷土に誇りをもち、確かな未来を拓く教育」を教育指針とすることを説明した。次に施策体系に基づき、学校教育・青少年健全育成では、将来の飛島村の担い手となる人づくりを、生涯学習・スポーツ・文化では、社会教育団体の自立、住民の生きがいや、豊かなところを育む活動の充実を。国際理解ではグローバルな視野を持ち、郷土を考えられる人材育成の推進について説明し、最後に新規事業について説明した。

<その他質疑、意見なし>

(2) 飛島村小中一貫校について（義務教育学校について）（資料2）

教育部次長から、一般的な小学校及び中学校の課題と、小中一貫教育のメリット及び現状を説明した。今後、義務教育学校への移行についても、検討の必要性を説明した。

<早川企画課長>

義務教育学校は、総合計画との関連も含め、平成32年度に移行するのか。

<鬼頭教育部長>

平成32年度を目標に進めて行く。

<赤田教育次長>

独自のカリキュラムの推進や管理職のリーダーシップが必要となるため、県と相談をしながらメリットになる点を示したい。

<田宮教育長>

平成31年度は小中一貫校の10年目の節目となる。また、平成32年度から新学習指導要領に全面改定となる時期も鑑み、条件整備をしながら進めたい。

(3) 海部地方教育事務協議会の研究委嘱について（資料3）

教育部次長から、飛島学園の開校10年の節目を迎える時期に、事務協議会より研究委嘱の要請があったことを受け、この機会に小中一貫教育とは何かを、現場の目線から検証し、平成31年度11月の発表に向け、2年間取組みたいことを説明した。

<その他質疑、意見なし>

(4) 教員の多忙化（働き方改革）について（資料4）

教育長から、一昨年あたりから文部科学省を中心に働き方の見直しの声が上がってきた。長時間労働の適正化、部活動指導の負担軽減、業務環境の改善、夏季休業中の見直し等について、県の第1回「カイゼン」推進会議の内容をもとに、より良い改革を進めたいと説明した。

<その他質疑、意見なし>

<久野会長>

働き方改革は難しいが、進めて行く必要がある。特に部活動では、先生方に力を入れて指導をしていただいている。子どもたちや保護者の「勝ちたい」「勝たせてやりたい」という気持ちを考えれば、幅広く見ていく必要がある。我々も、勉強し検討しなければいけない。教育面で先進的な活動をしている、静岡県吉田町へ研修に行きたいと考えている。

(5) 特別な支援が必要な子どもたちについて（資料5）

この件については、個人情報を含み、公にすることが適切でない内容を含んでいるため、秘密会議として説明した。

<川口教育委員>

子どもの発達はそれぞれ違うので、極力早期の対応ができればと考える。何をしたら良いのかよく分からないが、先送りにしてしまえばサポートが遅れて行ってしまう。早い段階で見つけて、手を差し伸べてほしい。

<久野会長>

大切なことを言っていただいた。そのために子育て支援センターをつくらせていただく。これは民生部だけの問題ではなく、学校教育とも連携を取って見守って行って欲しい。区別ではなく、世の中に出ていくためのサポートをしていきたいと思う。

3 その他

<協議案件、発言なし>

閉 会